

投手のキャッチボールの禁止の件

規則審判委員会

JABA では 2018 年のシーズンから、インプレイ中のグラウンド内でのキャッチボールを禁止したが、ブルペンでのキャッチボールは許可していた。2019 年度からは準備投球に関する 5. 07 (b) の規則改正 (8 球以内、1 分以内の制限の削除) を機に、ブルペン (室内含む) でのキャッチボールも禁止するよう、規則審判委員会から提案したい。

このことに関する規則上の裏付けは下記の通りである。

1. 公認野球規則 定義 1 2 BENCH or DUGOUT

ユニフォームを着たプレーヤーおよび控えのプレーヤー、その他チームのメンバーが実際に競技にたずさわっていないときに、入っていなければいけない施設である。

→ 大原則として、プレイをしている者以外は競技場内に入ることは許されない。
しかしながら、

2. 5. 10 (k)

両チームのプレーヤーおよび控えのプレーヤーは、実際に競技にたずさわっているか、《競技に出る準備をしているか》、あるいは一塁または三塁のベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチに入っていなければならない。

→ 例外として、試合を円滑に進めるために、特例としてベースコーチと次打者についてはベンチにいらなくてもよいこととしており、規則書巻頭の競技場の区画線にもその場所が定められている。

この規則の中の、《競技に出る準備をしているか》(原文では「preparing to enter the game」) とは、これから試合に出場する選手のことであり、具体的には、ブルペンで投球練習を行う投手を指すものである。

すなわち、試合開始前であれば先発投手であり、試合が始まってからは、これから救援で出場する予定の投手のことである。

《ブルペン》という言葉は、公認野球規則の定義の中に記述はなく、また競技場の区画線の図表の中にも記載はない。

ちなみに、《ブルペン》とはデジタル大辞典によると、

「野球場にある、試合に出ていない投手の投球練習場であり、かつては、安価な客席と兼用となっていた「牛の囲い場」を意味するものである。

以上